

PRAEVIDENTIA DAILY (12 月 22 日)

昨日までの世界：ユーロは量的緩和導入期待が根強く安値更新

先週金曜は、原油価格が持ち直し、米 2 年債利回りと米株価の上昇が続く中で、ドルが対主要通貨で総じて上昇した。ドル/円相場は、日銀決定会合後の声明文および黒田総裁記者会見では特段目新しい内容がなかったが、円安への懸念が特に示されなかったことが円売り安心感を強めたとみられ、12:28 分の日銀決定会合発表後から既にドル/円が 119 円乗せへ小幅上昇した。その後、NY 時間には米長期債利回りの低下の影響を受けてか、一時 119 円割れとなる局面があったものの、すぐに 119 円台を回復・続伸し、一時 119.62 円へじり高となった。

ユーロ/ドルは、ECB が国債買入後の損失発生に備え、ギリシャやポルトガルなどの中銀に対して各国の国債のリスクを考慮して引当金を用意するよう要請するとの ECB 関係筋発言報道が流れたことから、欧州時間に一時 1.225 ドル近辺へ下落した。その後 1.23 ドルを回復する局面も見られたが、再びドル高地合いもあって下落、一時 1.2219 ドルと年初来安値を更新した。

カナダドルは、カナダ 11 月 CPI 前年比が総合+2.0%、コア+2.1%と前月および市場予想を大きく下回ったことから、原油価格の反発にも拘らず対米ドルで下落した。特にコアは、原油安の影響を受けにくいにも拘らず、前月の+2.3%から+2.4%へ上昇する見込みが+2.1%へ反落したのが予想外だった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.6	+0.03	+0.02	-0.01	-0.03	-0.03	+0.00	+0.5	+2.4	+3.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	-0.5	-0.02	-0.00	+0.02	+0.01	-0.02	-0.03	-0.1	+0.5	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.2	-0.06	-0.05	+0.02	+0.01	-0.02	-0.03	+1.2	+0.5	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.3	+0.03	+0.05	+0.02	+0.10	+0.07	-0.03	+0.5	+1.7	+1.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.2	+0.01	+0.03	+0.02	+0.07	+0.04	-0.03	+0.5	+1.7	+1.0
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.2	+0.03	+0.02	-0.01	+0.03	-0.03	-0.05	+0.5	+5.0	+1.0

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.6	+0.13	+0.10	-0.03	+0.12	+0.07	-0.05	+3.4	+1.4	-4.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	-1.9	-0.14	-0.04	+0.10	-0.11	-0.03	+0.07	+2.4	+3.4	-0.12
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.2	-0.08	+0.01	+0.10	+0.03	+0.10	+0.07	+3.4	+5.8	-1.4
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.4	-0.03	+0.07	+0.10	-0.08	-0.00	+0.07	+3.4	+5.8	-1.4
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.6	-0.10	+0.00	+0.10	-0.02	+0.05	+0.07	+3.9	+3.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.2	+0.10	+0.10	-0.00	+0.01	+0.07	+0.06	+3.4	-1.6	-1.4

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：米2年利回り主導のドル高相場

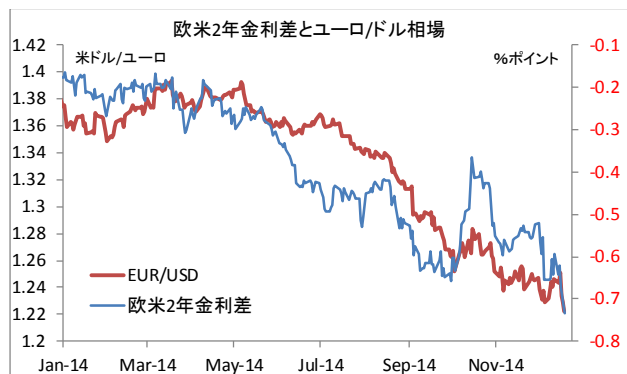
きょうの注目通貨：EUR/USD↓、USD/JPY↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
米11月中古住宅販売件数 ＜23日＞	0:00	526万件	520万件	
NZ11月貿易収支・NZドル	6:45	-9.082億	-5.0億	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

今週は週初の本日は非常に材料が少なく、明日23日は米経済指標は多少あるものの本邦休場、24日以降は欧米やアジアでもクリスマス休暇シーズンとなっており、材料が減少し流動性が低下、原油価格やロシアを巡って波乱がなければ全般的に小動きとなる可能性がある。とは言え、ユーロ/ドルは年初来安値更新が継続、豪ドル/米ドルや米ドル/フラン相場は米ドルの年初来高値更新を再び窺う展開となっており、ドル/円も再び120円方向へ上昇モメンタムが強まるなど、薄い中でトレンドフォローの動きで年初来高値更新となる展開も考えられる。実際、2年金利差との関係を見ても、ドル/円は米日金利差が年初来で最高水準へ拡大する中で上昇トレンドが強まっている（下図を参照）。ユーロ/ドルも、ドイツ2年金利はマイナスで低下余地が限られているにも拘らず、米金利の上昇で金利差ときれいに連動して下落している。

特にユーロ/ドルは、週末に Constancio・ECB 副総裁が独週刊誌 Wi-Wo 誌とのインタビューで、インフレ率が今後数か月のうちにマイナスに転じるとの見方を示したほか、Coene ベルギー中銀総裁も、我々は量的緩和導入を待ち過ぎた、景気刺激とデフレ対策のための一つの道具となり得る、と述べるなど、次回1月22日のECB政策理事会まで1か月程度あるものの、量的緩和導入に向けた機運は着々と高まりつつあるように窺われることから、週初はユーロ/ドルの年初来更新の可能性が高そうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641